

小学校【家庭科】 「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛驒教育事務所

1 家庭科における「主体的・対話的で深い学び」のとらえ

「主体的な学び」 ・・・	題材を通して見通しをもち、日常生活の課題の発見や解決に取り組んだり、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に粘り強く取り組んだり、実践を振り返って新たな課題を見付け、主体的に取り組んだりする態度を育む学び
「対話的な学び」 ・・・	児童同士で協働したり、意見を共有して互いの考えを深めたり、家族や身近な人々などとの会話を通して考えを明確にしたりするなど、自らの考えを広げ深める学び
「深い学び」 ・・・	児童が日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて様々な解決方法を考え、計画を立てて実践し、その結果を評価・改善し、さらに家庭や地域で実践するなどの一連の学習過程の中で、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら、課題の解決に向けて自分なりに考え、表現するなどして資質・能力を身に付ける学び

生活の営みに係る見方・考え方・・・家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫すること

2 「主体的・対話的で深い学び」の例

つかむ	- 生活の中から問題を見だし、課題を明らかにする。 - 解決に向けて、どのような順序や方法で追究すればよいか見通しをもつ。	児童が日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けての見通しをもつ。 【主体的な学び】 「〇〇について自分の生活を見つめてみよう。」「どんな生活を送りたい？（どのように改善したい？）」と問い、児童が日常生活の中から問題を見だし、改善に向けて具体的な課題を設定できるようにする。 - 知識及び技能の習得を図る学習では、具体物を用いた資料提示や憧れをもてるような示範を行い、児童の追究意欲を引き出す。 - 児童が考えた追究方法を認め、価値付け、児童が安心して課題追究を行えるようにする。 - 願いがあってもやり方が分からず困ってしまうことがないように、教えるべきことは教え、児童が追究の見通しをもてるようにする。
深める	- 実践的・体験的な活動（調理、製作等の実習や観察、調査、実験など）を通して追究する。 - 仲間との交流を通して、考えを広げ深める。 - 交流したことを基にさらに追究する。	児童が生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、試行錯誤したり、仲間と交流したりして課題を追究する。 【主体的な学び】 - 画一的な追究方法を提示するのではなく、様々な方法で追究できるよう教材や学習環境を充実させたり、複数の追究方法から選択して取り組んだりできるようにする。 【対話的な学び】 「他に同じようなやり方はある？」「違うやり方はあるかな？」と問い、自分の考えと仲間の考えとの共通点や相違点に目を向けられるようにする。その際、ペアやグループ等の活動において、考えを集約・分類するなど、互いの考えを可視化し、比較できるように学習環境を工夫する。 【深い学び】 - 課題解決に向けて収集した情報を、「協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等」の視点から多面的に分析・考察するよう促す。その際、「何を基に考えた？」と問いながら、既習事項や生活経験などに関連付けて考えられるように指導する。
まとめる	- 自己の変容や苦労したこと、困ったことを振り返るとともに、家庭実践の見通しをもつ。 - 次の学習の見通しをもつ。	児童が自分の生活が家庭や地域と深く関わっていることを認識したり、自分の成長（学び）を自覚し、実践する喜びに気付いたりする。 【深い学び】【主体的な学び】 「最初にイメージしたものになったかな？」など、はじめに設定した課題について振り返ることができるように問いかける。また、「〇〇はさらに改善（工夫）できないかな？」「〇〇できなかった原因は何だろう？」などと問いかけ、振り返りから新たな課題を引き出す。 - 学習したことを、「協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等」の視点から評価・改善することができるように、まとめの視点を明らかにする。また、「いつ、どんな場面で、どのように実践できそうかな？」と問い、家庭実践つなぐために必要なことを考えることができるようにする。